



第17号

(年2回発行)

発行所  
**喜多流大島能楽堂**  
 〒720-0814  
 広島県福山市光南町2-2-2  
 TEL 084-923-2633

# 心新たに

シテ方喜多流 大島衣恵

この度、広島県教育委員会より、教育奨励賞（地域文化）の表彰を頂きました。大変光栄なことと、関係の皆様にご心より御礼申し上げます。

近年、能をはじめ伝統文化全体が見直され、学校教育においても、また各メディアで取り上げられる機会も多くなりました。私たちが「能学習」として、各学校で授業を持たせて頂く機会も、年々増えてきています。世情は日々変化し、社会にはあらゆる情報があふれ、価値観や美意識までもが激しく移り変わる現代だからこそ、伝統文化が持つ普遍性が求められているのかも知れません。

伝統文化を学ぶことを通じて、子供達には自分の生まれ育った国や地域に愛着と誇りを持つて欲しい。その上で広く世界へ羽ばたいて欲しい。私たちの活動がその一助となればと願っています。

本年、喜多流大島能楽堂定期公演は五〇周年の節目を迎えます。祖父・久見が昭和三十三年に「能楽教室」として立ち上げてから半世紀。能楽師自身も勉強、また観客の皆様にもより深く能を理解して頂きたい、という思いが「能楽教室」という公演名に込められています。名称は改めましたが、その精神を受け継ぎ、この公演を私たちの活動の基盤として、心新たに一層精進してまいりたいと思います。



- P2 熊本から能を世界へ
- P4 Getting to Noh
- P6 鬼界島紀行
- P8 能学習発表を終えて

ジャネット・チェン  
 狩野瑠璃  
 梶原宣俊  
 旭小学校

# 熊本から能を世界へ

喜多流職分

狩野 琇 鵬

想い起せば、私が内弟子に入つて約四年間共に生活した一間には、大島政允さんとの限り無い思い出で溢れています。お互いに地方からの上京組で、年齢的には少々上の私でしたが、能の世界では大先輩だった政允さんを見習つて居りました。それ以来久見先生とのお付き合いもさせて頂き、色々と学ばせて頂きました事、感謝此上も無き思いであります。

昨年から今年にかけて、熊本は熊本城の復元が築城四百年記念として行なわれています。熊本はご存じの通り、加藤清正の入国が起点となつてそれ以来細川の治世を経て今日に至っています。肥後の能楽は、約四百年以前には、菊池という所に、御松囃子という能狂言の前身的な伝統芸能が存在していました。現在の能楽の型は、加藤清正に隨身して来た中村家が能の家として存在していました。流儀は金春流でしたが、祇園社に仕えた社司であつた友枝家が喜多流に転じ、今日に至っています。

熊本は現在も連綿として御神事に携わる奉能が年間に十回程有り、全国的にも数多い所ではないでしょうか。私も責任上、この奉能に休む事なく参画し、お世話しています。一月五日は松囃子の御神事として、午前に北園祇園神社にて「高砂」、金春流「羽衣」、「猩々」を本座として勤め、午後移動して藤崎八幡宮にて、「弓八幡」のあと喜多流「東北」を勤め、金春流「嵐山」で相済み直会が催され、金春流、喜多流の祝言謡「四海波」で納めます。この御神事にて一年間の能の奉仕始めとなり、四月、藤崎宮の藤祭、出水神社春季例大祭、健軍神社の花の薪能、八月、

## かのう しゅうほう 狩野 琇 鵬 氏

本名 狩野丹秀  
喜多流能楽師  
熊本県在住  
国総合指定重要無形文化財  
熊本県民俗文化賞受賞  
日本能楽協会会員、日本能楽会会員

- 1937年 肥後細川藩のお抱え絵師であつた狩野家の10代目にあたる狩野英雄の四男として熊本に生まれる
- 1952年 肥後藩の加藤、細川両家に仕えた能楽師友枝家に師事し、狩野家初代能楽師となつた父英雄に続いて、2代目丹秀15歳のときに友枝家に入門
- 1968年 熊本の能楽普及のため「三ツの木の家」を創設
- 1991年 “熊本の能楽に新風を”をモットーに「桐光の能」を主宰、年1回の定期公演を始める。またユニセフ協賛の「花の薪能」も主宰、健軍神社の春の例礼に合わせて始める
- 1992年 エクス・アン・プロヴァンス市へ本格的能舞台を寄贈
- 1994年 エクス・アン・プロヴァンス市の「狩野丹秀能楽堂」の柿落とし、これ以後年に1回現地にて能楽の指導を始める
- 1999年 地域文化功労者として文部大臣表彰をうける(文化庁)
- 2005年 三代能公演(琇鵬67歳「江口」・了一37歳「石橋(抜き)」・祐一9歳「経政」)  
ポーランド(ワルシャワ)、フランス(エクス・アン・プロヴァンス、パリ)公演  
海外公演フランス、アメリカ、ドイツ、イタリアなどで十数回  
新作能 1998年「風浪」、2002年「武蔵 五輪書伝」を制作発表



祇園神社、出水神社、九月は藤崎宮例大祭の神事能(四百年の歴史ある奉能)、十月、藤崎宮、出水神社と、か様の行事が毎年毎年です。大変な事ですが、毎年、年頭の松囃子で、お囃子方との顔合せとも云える事も有り、一年間の無事をお互いに確認し合えるわけです。

神への奉仕と思えば、欲身が無くなり、清々しい気持で舞えるし、常時、舞台を勤める時も此の気持を捨てずにと心指せば理想的と思つていきます。

他所に比らぶれば、特異性の有る熊本かもしれませんが、四百年も続いて御神事の能業が、歴史的に能業人を育て、喜多流にとつても、自分にとつても有難い行事となつていと思つていきます。この御神事能も昨今熊本だけで行え無く、囃子方をはじめ、三役はほとんど他県から招集しなければならず困難になつていますが、懸命に頑張つていきます。

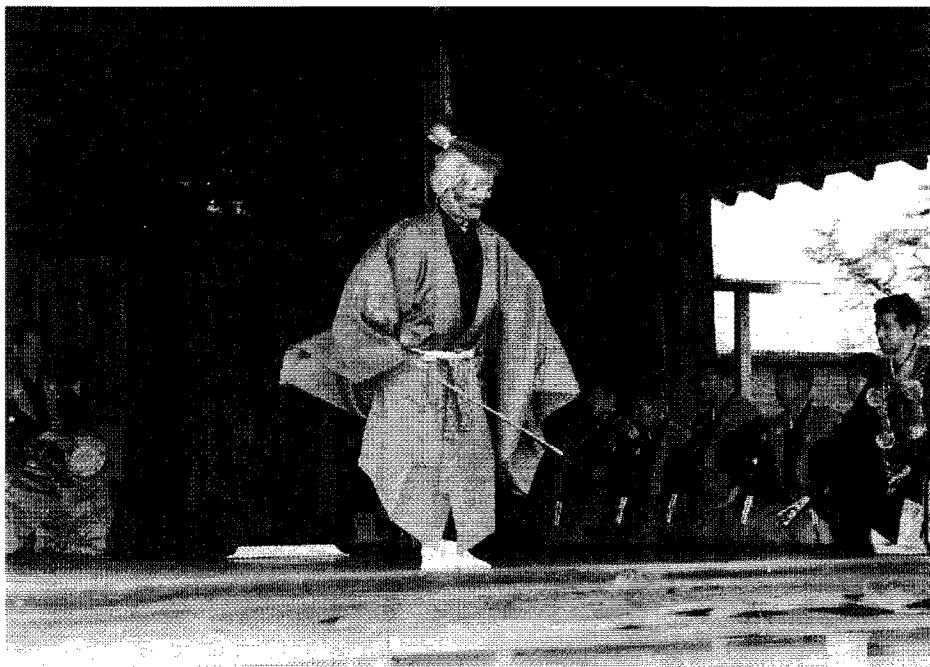
今年は又「清正」という新作能の制作に当つていますが、仲々はかどりません。政允さん、衣恵さんにも参画して頂く事になっていますが、日々頭を悩ませている今日此頃です。

身のちぢむ想いをし乍らも、これらに挑戦し続けていきます。

海外での活動、特にフランスのエクス・アン・プロヴァンス市とのお付き合いは一九九一年、オペラフェスティバルに招かれたことが縁です。久留米市の旅館にあつた能舞台をエクス・アン・プロヴァンス市に移築し、一九九四年には柿落としての能公演を盛大に行いました。以来毎年のように彼の地まで能指導、能公演に訪れています。

今年は日仏一五〇周年記念事業参加として、多勢の人々の助けを受けて出掛けます。

数年前のドイツ、シュバイヤーでの大聖堂演能の「翁」が、ドイツ側の宗教会議の賛同の許に催された事も、この世に東西の区別なき神の国の世の行事としての神事能であつたろうと思つ時、能が民族の融合性を持つ平和的芸能の存在として大きく輝いている様に思えるし、これからも地元の御神能を大切に、自分の舞台を一生懸命に勤めて行き度いと思つていきます。



藤崎八幡宮秋季例大祭 能「野守」 シテ 狩野瑠鶴

# Getting to 'Noh'

## 能に辿り着く

ジャネット・チェン

教育コンサルタント  
教育アドバイザー  
作家  
英国ロンドン在住



後列 右から3人目 筆者

私が初めて能を鑑賞したのは三十年以上も前、ロンドンでのことです。その時の印象は、能とは非常に漠然とした不明確な演劇形態であるというものでした。しかし、断続的に展開される音声と抑揚のある音楽、優美で、正確且つゆっくりとした足運びの所作、また演者の身に着けていた装束と面が非常に優雅であり気品のあるものであったということを、現在でも鮮烈に覚えています。

私は以前、東京のブリティッシュ・カウンシルと連携して英国と日本の教育共同研究に従事していました。仕事がらみで十年以上も日本国内を旅行し、それも観光地とはかけ離れた地方旅行が多かったと思います。英日両国間には教育制度に大きな違いがあるにもかかわらず、多くの価値ある関係が互いの国や教育機関、相互の大学に創出されていることを認識しました。

十年にわたる日本訪問中、私の友人たちが日本文化への理解の手助けをしてくれました。研究会開催が成功裏に終わった時など、歌舞伎座での歌舞伎夜間公演鑑賞、合間をみては観光化されていない寺院散策、懐石料理料亭招待など京都に限らず様々な所を案内してくれました。また祇園祭、節分など伝統行事に思いがけなく接することも出来ました。このこと全てが私の日本理解にとって大切なものとなり、もつと違った分野での知的な経験をして日本人の美意識をもつと理解したいと思うようになりました。

二〇〇七年十一月の日本旅行は、そういつた私の願望にそったものでした。私の旧友の木村教授は、今回、旅行代理店の柴田氏とともに私と友人のデカのために素晴らしい旅程を立ててくれました。東京から旧中仙道、京都での職人や寺院訪問、福山での能鑑賞、広島厳島神社、高野山、竜神温泉、金沢兼六公園や懐石料理、能登半島の信じられないほど素晴らしい輪島塗見聞などなど、日本文化探訪三週間旅行です。

私達はこの旅行中、色んな日本人の方と出会いました。その出会いを通して未知なる物が明らかになっていくという冒険のような出会いの旅でもあったのです。その中で福山での出会いは、素晴らしいものとなりました。

今回の日本文化探訪の第一希望は能鑑賞でした。旅行代理店の柴田氏は、

芸術性のある質の高い能楽を鑑賞することが重要とアドバイスをしてくれました。能公演の期日、曜日など限られ実現が難しいと思っていました。彼がネット検索し、広島県福山市にある喜多流大島能楽堂での能楽公演を見つけ、正面席に予約してくれました。

それは驚くものでした。能楽についての全ての思い出が甦り、また能楽堂の持つ厳肅な雰囲気包み込まれていました。おぼろげなものが現実となり、優雅で気品のある装束、面、所作と音声が、単純な要素を用いて最大の効果をもたらす演劇形態に合致していました。能のストーリーは詳細には理解できませんでしたが、この素晴らしい体験に私たちは感銘せずにはいられませんでした。完全とも思えるような集中力、正確さ、精密且つゆっくりとした動作、よく鍛錬された技能、これらは以前、太極拳の達人の「ゆつたりした中に気を込めることをよしとする」とした演技を見て以来のことでした。しかし、能の特長には、型の中に深く覆い隠されている意思伝達の濃淡と言えるものがあり、時により舞台から観客はほとんど瞑想的且つ想像力の世界へと惹きこまれて行くのです。このような高水準の技能を持つ達人には、全体論的視野に立つ演技がなされているのだと思います。演者が鍛錬するすべては肉体的なものを超越し、観客も又能の世界に入っていかなければ本当の意味で理解できないのではないかと思います。

観客の中で私たち以外に西欧からの観客はいませんでしたので、よく目を惹いたのだと思います。広島から能楽ドキュメント番組製作取材に來ていたテレビディレクターの鍵本文吾氏が我々のところに歩み寄り、インタビュースいたいのことでした。

このことが、そもそも私の今まで続いている能楽探求の旅、冒険の始まりだったのです。

大島家当主の大島政允氏は私達がロンドンから訪日し、能再発見のために喜多流大島能楽堂に足を運んだことを知ると、出演した能楽師や大島家の人々との食事に鍵本氏と私たちを招待してくださいました。本当に素敵で一夜でした。能という芸術の素晴らしさ、大島家の芸の素

晴らしさは何代も経て、性別を問わず、それも幼少時から老年まで、全員が能に携わり、全ての人が芸に優れているというのにも驚きました。私たちの次の行き先が、広島とわかると、鍵本氏が、明日、広島舟入高校で大島家の人々が能を演ずるということを教えてくれました。そして、私たちが招待してくれるというのです。何という幸運！長年、教育界に身を置いたことを考えれば、断る理由などなかったのです。

翌日の午前中、宮島厳島神社を訪れ、午後、鍵本氏が私たちを会場の舟入高校へと案内してくれました。会場は高校生と共に大島家による能楽についてのお話(私たちには英語教師の説明があり)を聞くことができ、女流能楽師大島衣恵さんによる靈感に満ちた能「巴」を鑑賞しました。大半の高校生にとって能楽の鑑賞は初めての経験であったようです。

福山と広島で学び知ったことに非常に感動しましたので、この新しく発見した興味について追求したいと決心しました。そして、東京で輝久氏と再会をして能のことを沢山教えていただきました。その時、英語の達人な能管奏者の滝沢成実さんが一緒に会って下さったのです。

能には二五〇曲ほどの古典作品があり、現在、新作能や英語による能の上演もあるとのことでした。

そこで、私の新作ミュージカル「PAGODA」(神像、仏像、塔)が能形式に脚色できる可能性があるかどうか検討をしていたことができたばと思っています。

私の創作活動に対する新しい挑戦としての作品というためではなく、この作品が大島家の人々の才能、美、磨き上げられた芸によって演じられれば、さらによりよいものへと高められていくことは素晴らしいと考えるからです。改めて、今回の旅行で大島家の人々に出会い、その芸を身近に見ることができましたのは至上の喜びです。も「PAGODA」を上演することが出来ることになれば、夢が実現すること以上のことです。実現には数多くの問題点があるかと思いますが、新しい能形式の作品を創作する可能性を追求する機会が持てることは誇りとも思っています。

# 鬼界島紀行

鹿兒島出水喜多会

喜多流謡教士 梶原宣俊

五月中旬、私は鹿兒島港から三島村営船に乗り、硫黄島(鬼界島)に向かっていた。鹿兒島に来たからには、一度は俊寛が流されたという硫黄島に行ってみたくないと密かに望んでいたからである。ちょうど、「第九回俊寛祭り」が硫黄島で開催されることを知り、参加したのである。右に薩摩半島・開聞岳、左に大隈半島をながめながら、初めて錦江湾の奥の深さを知った。外海に出るまで一時間半もかかったのだ。東シナ海は風が強く白波がたっていた。私は持つてきた「鬼界嶋」を取り出し、稽古を始めた。明日の夜の交流会で披露するつもりなのだ。しだいに波が強くなり船が揺れ始めた。私は船酔いしやすいので稽古をやめて船室で眠ることにした。

大きな汽笛の音で目が覚めると、そこはもう竹島であった。三島村は竹島・硫黄島・黒島の三つの島から成り立っている。滞在で知ることになる。フェリーは二日に一度しか運航していない。琉球竹がうっそうとした無人島のような竹島を出ると、もう目の前に不気味な硫黄島が見えてきた。地球の生まれた頃を想わせるような生々しい火山が噴煙をあちこちから噴き上げている。青く澄んだ美しい海は硫黄の噴出で茶褐色の流れをつくっている。この辺は海底火山があり、噴出していることを示している。私はどす黒い汚れた海を見たことあるが、褐色の海は初めてである。ゴツゴツした山肌と噴煙と褐色の海は、昔の人がここは地獄・鬼の住む島と想ったのも無理からぬことであると思った。そしてこれが俊寛の流された鬼界島かと思うと胸が熱くなった。船はやがてその褐色の海に入り岸壁に着いた。四時間がすぎている。

港には島の人たちが出迎えに来てくれていた。そこに住んでいたのは、大山村長はじめ鬼どころか素朴で優しい仏様のような人々であることを私は二泊三日の民宿滞在で知ることになる。

海岸には海に向かって手を上げものすごい形相で赦免船を追う見事な俊寛像が立っていた。私は俊寛の無念と悔しさを想いながら手を合わせた。その傍には十年前、中村勘三郎がこの海岸で歌舞伎「俊寛」を上演した記念碑が建てら



れていた。俊寛像は平成七年三月に建てられ、その除幕式に中村勘三郎が招かれた縁で平成八年五月に歌舞伎が上演されたという。実は今回の「俊寛祭り」はそれ以来毎年行われていることを初めて知った。

私たちは島の人の案内で、熊野神社・安徳天皇陵・俊寛堂・平塚墓などを見て回った。驚いたことに、安徳天皇は「壇ノ浦の戦い」で生き延びてここ硫黄島に平家の落ち武者とともに流れ着いたという。古いお墓があり、天皇の三代目の子孫である長濱氏が住んでおられ、古文書がたくさん残されているという話を聞けば何だか信憑性がある。

翌日の夜はいよいよメインの「俊寛祭り」である。俊寛像に献花がなされ、地元の方々総出で伊勢海老の入った味噌鍋「俊寛鍋」や名物の「大名竹の子」などの馳走がだされた。村長さんの挨拶に続きアフリカのジャンベという太鼓演奏が若者や子供たちによって行われた。何とこの島にはアジアで唯一のジャンベスクールがあるのだ。全国から数名の学生が留学してくるという。

次は私の番であった。紋付き袴を持ってこなかったので「俊寛祭り」のハッピを借りて舞台に立った。海をバックにして俊寛像の横で謡った。シテの「さては俊寛一人はこの島に、留まれと候な」から「俊寛が有様を見るこそ哀れなれけれ」までを披露した。「俊寛祭り」にしては俊寛そのものの出し物がほかになかったから

好評であった。

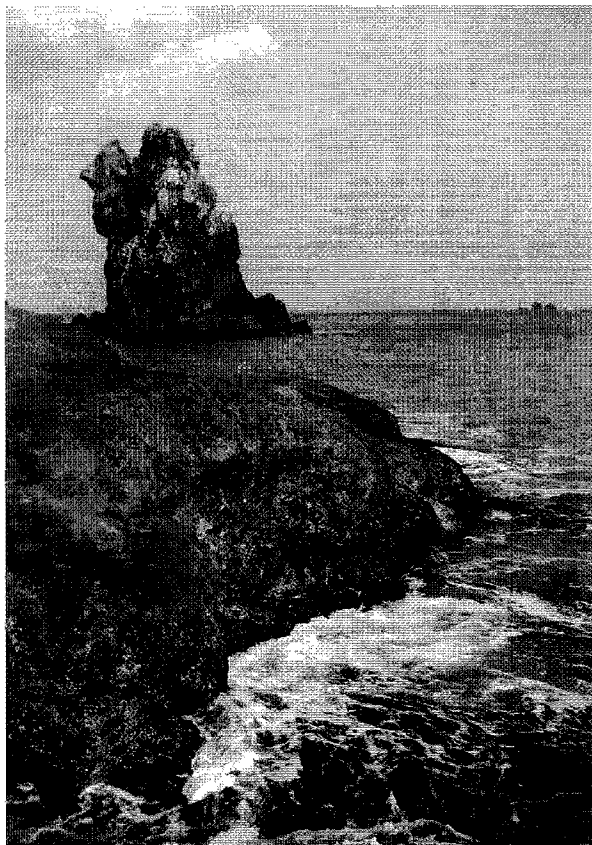
次に今回のメインゲストは有名な坂田美子さんで薩摩琵琶による弾き語りであった。

「祇園精舎」「扇の的」「鶴」の三曲が夕暮れの海岸に切なく鳴り響いた。偶然にも私は広島・福山時代(九年前)に坂田さんのCD「琵琶うたものがたり」を購入し聴いていたので驚きとともに大変感銘を受けた。さらに驚いたことに、中村勘三郎を呼び坂田さんと呼んだ仕掛け人は国立能楽堂の企画制作課専門員の茂木仁史という方だった。その方も来ておられて私は冷や汗がどつと出てきた。

最後の締めは「柱松」という伝統行事で、大きな竹を柱にし、村の若者たちが、小さなたい

まつを投げて火をつけるというものである。真っ赤に燃え上がるたいまつが夜空を焦がし、私は焼酎の酔いも手伝って朦朧とした幻想の世界を漂った。俊寛像が闇夜にぼんやりと浮かび上がり、心なしか喜んでるように見えた。

翌朝、私たちは再び島の人たちの暖かい見送りと七色の紙テープに未練をつなぎながら、褐色の湾をあとにした。俊寛像が「待つてくれ」と私たちに手を上げていた。私は、成経と康頼もまた、置き去りにした俊寛の悲痛な姿に胸をしめつけられるような思いを抑えながら出発した。に違いないと思いながら、硫黄島をあとにし





# 能学習発表を終えて

福山市立旭小学校

於 喜多流大島能楽堂

福山市立旭小学校校長

廣澤芳子

春待つ一月二十日、本校の六年生は喜多流大島能楽堂の舞台に於いて、『月宮殿』の謡を発表する機会をいただきました。

着物に袴姿で緊張した面持ちではありませんでしたが、お客様の前で一生懸命発表することができました。最後に大島先生から「よくがんばりましたね。」とお褒めのことばをいただき、ほっとしたのでしよう、子どもたちに笑顔がこぼれました。この日に至るまでの先生のお教えは、きつと一生の財産として子どもたちの心に残ることと思います。

帰る頃には、朝からのみぞれがますます強くなりましたが、傘を斜めに話が弾んでいるようでした。

卒業を前に、このような貴重な体験をさせていただきました。国際ソロプチミスト福山の土井会長様をはじめ大島家の皆様方に心より感謝申し上げます。

六年B組担任

深渡瀬聖子

半年前、大島能楽堂で体験学習をさせていただいた時、これが能との初めての出会いでした。本当に子どもと同じスタートでした。謡や立ち居振る舞いなど、子どもとともに学ぶ中で、能

が持つ力、先人たちが創り上げた芸能のすばらしさなどを体感することができました。

半年間という長い間、優しく分かりやすく子どもたちに能を教えて下さり、ありがとうございます。毎回、ほめられることが嬉しく、目標をもって取り組む子どもがたくさんいました。すばらしい出会い、そして発表の場を与えて下さり、感謝します。

\*能体験学習を通して舞台に立たせていただいたことは、子どもたちにとって貴重な経験になったことと思います。また、普段の生活ではなかなか触れることのできない場面に出会えたことに感謝しております。着付けのお手伝いは大変でしたが、これもまた貴重な体験でした。着物を着て、袴をはいた子どもたちは、きりりとしてとても格好良かったです。ありがとうございます。

六年生保護者

\*雪の降る大変寒い日でしたが、定員をはるかにオーバーの五〇〇余名の親子のかたがたの参加で会場は可愛い熱気に溢れていました。土井紀子会長のご挨拶で始まり、二時間のプログラムを小さいお子さん達が熱心に鑑賞してくださいましたのには感動を覚えました。

この企画を計画実行、お世話くださいました国際ソロプチミスト福山の方々に深く感謝申し上げます。

大島能楽堂





\*とうとうこの日がやって来ました。この日まで、毎日のように『月宮殿』を誦い続けてきました。卒業すると、もう二度とこのメンバーで誦うことはないと思います。本番では、今まで以上にがんばることができました。悔いの残らない発表ができて良かったです。次は二月の参観日での発表です。参観日に向けて、またがんばりたいと思います。

上ノ山 茜

\*僕は、両親に「俺の声を聴いてよ。」と言って家を出ました。本番では、思ったほど緊張はせず、力を出し切ることができました。一番びっくりしたのは、自分の声が能楽堂の後ろの壁に当たってはね返ってきたことです。家に帰ってビデオを見たら、友だちも大きな口を開けて腹から声を出していました。とても良い思い出になりました。

栗原 一樹

\*大島能楽堂の舞台で発表しました。大勢のお客さんが来られていたので、とても緊張しました。私は、今まで練習をしてきた中で、一番良い声が出せたと思います。お客さんも真剣な表情で聴いてくださったのでうれしかったです。一生の思い出になりました。

藤井 美加

\*一月二十日に能の発表会がありました。僕は、皆と一緒に能舞台上がり、『月宮殿』を誦えたことがとてもうれしかったです。大島先生の舞もとても綺麗でした。僕たち六年生にとつて、忘れられない思い出になりました。

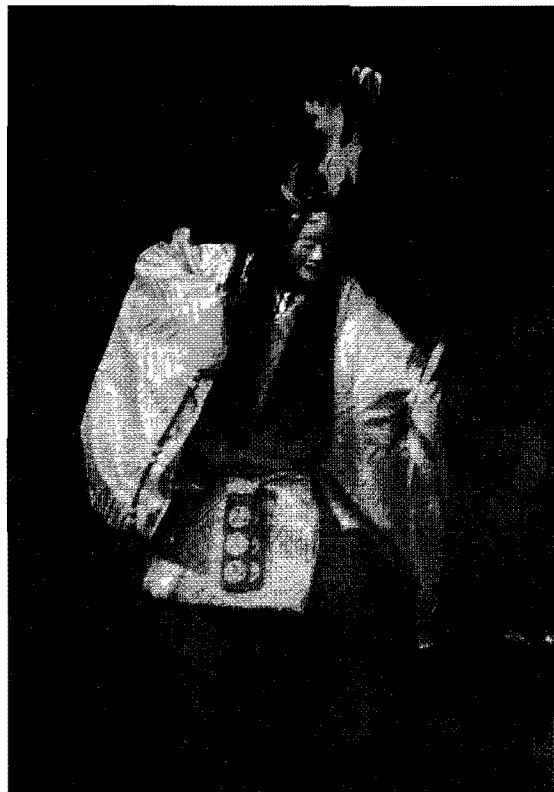
寺岡由貴

\*私は、最初は自信が持てなくてなかなか大きな声が出せませんでした。でも、そんな戸惑いから私を救ってくれたのは皆の力でした。本番では、リハーサルのおかげで皆のやる気が伝わってきました。私たちの誦は、短期間のうちにすごく進歩したと思います。私は、賑やかで楽しい普段のクラスも好きだけど、皆の一生懸命な姿や必死な姿も大好きです。卒業まで、残りあとわずかか。今日の発表のように、皆で力を合わせて色んなことに挑戦していきたいと思っています。

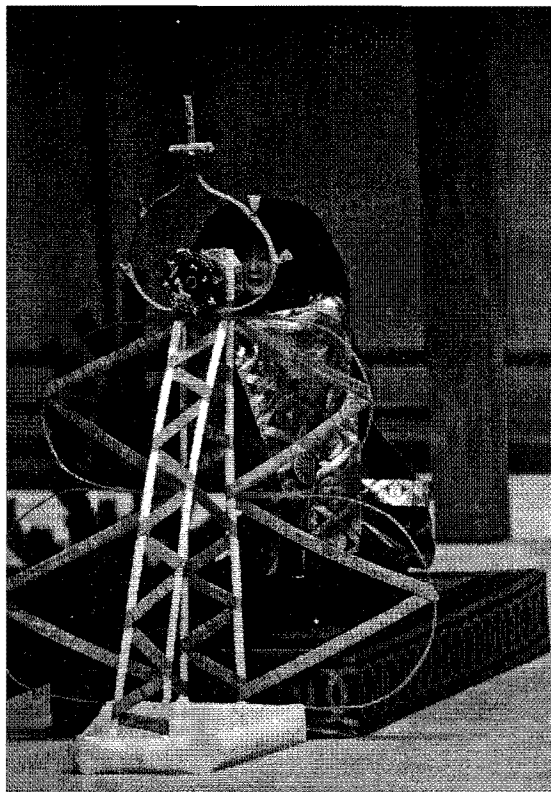
坂本佳穂

\*能の発表会はとても楽しかったです。私は、大きな声が出せましたし、姿勢を意識することもできました。私たちの発表を見て、母もとても感動していました。家族に喜んでもらえてうれしかったです。六年間の中でも、とても良い思い出になりました。二月の参観日も、今回以上の声を出したいと思っています。

台田結希美



能「殺生石」 シテ 大島政允 於 大島能楽堂 (2007.9.30)



能「天鼓」 シテ 大島輝久 於 東京喜多能楽堂 (2007.9.22)



能「枕愁童」 シテ 大島政允 於 アステールプラザ能舞台 (2007.11.17)



能「融」 シテ大島牌久 於 大島能楽堂 (2007.11.18)



能「通小町」 シテ大島政允 於 大島能楽堂 (2007.11.18)

昨秋、約3ヶ月間(8月末~11月中旬)中国放送RCC鍵本ディレクター担当制作番組の取材を受けた。朝日テレビ系列番組で、タイトルは「生きる×2」「奥様は能楽プロデューサー」

鍵本氏は早稲田大学時代、能楽クラブで活躍され多方面に深い見識をお持ちの方で、そのディレクターが制作される番組の被写体に私でいいのだろうかとの疑問を抱きつつも被写体OKを出してしまったのである。

東京での編集者の仕事を辞して大島家に嫁いで35年。平素、陰の人間に徹したいと思い努力し動いてきたので、カメラを向けられただけでアタフタしてしまった。めったにこぼさないお茶も溢してしまった!

大掛かりなカメラクルーでの取材は演能のシーンがあるときだけで、あとは鍵本ディレクターがミニカメラを持って何度も福山に通われた。トータルで30分テープを60本撮られたとのこと。それを24分間に編集されたものが放映されたのである。

自分が被写体になっている番組放映を暫く会っていない遠方の友人達に知らせることを躊躇したが、やっと2、3日前に知らせた。友人達の感想は好評で、もっと長い番組でも良かったのと言う人もいた。

一男三女の4人の子を授かり育てる過程で強く感じたことは、「日本の伝統文化が教育現場で教えられていない!」という悲しい現実。あれから20数年、長女衣恵が東京藝術大学を卒業して10年。福山を拠点にして何とか教育現場で伝統文化、能を取り入れていただけるようになり、嬉しい限り。今番組は私の子育ての延長線上にある能学習推進プログラムの記録としても貴重なものとなった。

鍵本氏を始め、関係各位に深く感謝申し上げます。

大島能楽堂事務局 大島泰子

## 2008年度 演能ご案内

開催日	催名	開演	会場	鑑賞料	演目
3月16日(日)	第212回 大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「歌占」長田 驍 狂言「寝音曲」茂山あきら 能「葵上」大島輝久
3月22日(土)	喜多流青年能	12:00	東京喜多能楽堂	一般 4,000円	能「通盛」大島輝久
4月20日(日)	第213回 大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「桜川」大島衣恵 狂言「清水」茂山千五郎 能「鶴」白頭松井 彬
5月5日(祝)	お能で遊ぼう	10:30	リーデンローズ	要申込	おうたい 紙芝居「羽衣」
5月18日(日)	喜多流春の会	10:00	喜多流大島能楽堂	無料	能・舞囃子・仕舞・素謡
5月25日(日)	喜多流職分自主公演	11:45	東京喜多能楽堂	一般 6,000円	能「烏頭」大島政允
7月28日(月)	福山八幡宮新能	18:30	福山八幡宮	未定	能「翁」大島政允 野村萬齋 狂言「未定」
8月10日(日)	三和の森光信寺新能	18:30	光信寺	未定	能「鞍馬天狗」大島政允 狂言「二九十八」茂山正邦
8月16日(土)	瑞泉寺送り火能	19:30	瑞泉寺	無料	奉納
9月21日(日)	第214回 大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「半部」立花大島政允 狂言「鳴子遣子」茂山千五郎 能「白是界」金子匡一
10月19日(日)	総合文化祭 秋の会	未定	喜多流大島能楽堂	無料	仕舞・素謡
11月3日(土)	後楽能	11:00	岡山後楽園能舞台	前売 5,000円 当日 6,000円	能「蝉丸」内田安信 狂言「千鳥」茂山正邦 能「船弁慶」大島政允
11月8日(土)	鞆の浦名舞台	10:00 14:00	沼名前神社能舞台	無料	能学習発表 能楽への道しるべ 能舞「敦盛」
11月13日(木)	はじめての能楽大会	13:00	岡山後楽園能舞台	無料	能学習発表・鑑賞会
11月16日(日)	広島大島会 秋の会	未定	妙慶院	無料	仕舞・素謡
11月30日(日)	第215回 50周年記念 大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	お話 馬場あき子 能「卒都婆小町」大島政允

**編集デスクより**  
本年度も沢山の学校で能の授業に取り組み、大勢の子どもさんからお手紙を頂きました。ありがとうございました！  
子ども達が未知なる物に熱心に取り組み、やり終えた喜びを綴っている文章を読むのはとても楽しみなことです。どの子もみんな、輝いていました。この輝きを大切にこれからの人生を切り開いて下さい。(Y・O)

◆先生方のご指導により、発表会は成功裡に終わり、発表した六年生、そして、鑑賞した一年生、五年生まで、教科の授業では得られない鞆ならでの学習成果を得ることができ、有意義に会を終えることができました。  
能(連吟)に取り組み、培った力は、鞆の子どもたちのこれからの生き方に確かに反映されていくものと信じております。  
(福山市立鞆小学校校長 廣田純子)

◆幼時期より日本古来の素晴らしさを学び、日本に生まれ、日本人として育てられていることに感謝出来る子への指導に力を注がれている姿に頭が下がりました。  
百二十名の元教師は、あらためて日本人であることに感謝し、誇りをもつことを学びました。ありがとうございました。  
(広島県退職女性校長会)

◆長期間に渡り城南中学校へ能を教えに来てくださり、ありがとうございました。これからも勉強をがんばるので、大島さんも能をがんばってください。  
(福山市立城南中学 二年生)

◆今回初めて能を見ました。とてもすばらしい日本の文化だと思いました。声を出したり、型の体験をしたりして、とても楽しかったです。また、見てみたいです。  
(広島県立久井高校生)

おたより・感想ありがとうございます

### 喜多流大島能楽堂

〒720-0814 広島県福山市光南町2-2-2  
TEL 084-923-2633  
FAX 084-923-8730  
http://www.osimanoh.gr.jp